

阿蘇くじゅう国立公園 長者原ビジターセンターからお届けする

くじゅうだより

TAKE
FREE!

2025 夏号
くじゅうの野鳥



くじゅうの野鳥観察にでかけよう♪

くじゅうファンクラブ活動情報

*「くじゅうファンクラブ」は、「くじゅう地区管理運営協議会」の通称名称です。

皆さまのご支援で、
こんな活動をしています。

教育・
普及啓発

自然環境
保全・調査

登山道等
整備活動

登山道の清掃・整備活動が行われました

5月16日、九電みらいエナジー八丁原発電所と九重の自然を守る会による登山道整備が、牧ノ戸峠～扇ヶ鼻分岐間と牧ノ戸峠～黒岩山間で行われました。この活動は昭和56年から続けられ、多くのボランティアの協力により、登山道が整備されてきました。

当日は小雨が降り、実施が危ぶまれましたが、次第に雨は上がり、薄日が差すまでになりました。約40名の方が活動に参加し、ゴミ拾いのほか、登山道の滑りやすい箇所には杭や板を取り付ける等の作業を行いました。整備にあたった皆様、ありがとうございました。

くじゅうファンクラブでは、道具の貸出や職員の派遣を通して、くじゅう連山の登山道整備活動を支援しています。



チームタデ原 2025年度活動スタート！

九重町の小中学生で構成されているチームタデ原は、新たなメンバーを迎え、今年は総勢19人での活動となります！6月21日、今年度最初の活動では、タデ原湿原を散策したあと、牧ノ戸峠展望台へ行きました。

継続メンバーがタデ原湿原を案内し、タデ原湿原の特徴や生息する動植物、草原が守られている理由など、たくさんのタデ原の魅力を新メンバーへ伝えることができました！

午後は牧ノ戸峠展望台へ登り、タデ原湿原を見下ろしながら、今と昔でどのように様子が変化しているか、写真を見比べながら話を聞くことで、くじゅうの自然・タデ原湿原を守っていくためにチームタデ原としてできることについて考えるきっかけとなりました。

くじゅうファンクラブでは子どもたちへの環境教育を通して、くじゅう地区の環境を守る活動に取り組んでいます。



阿蘇くじゅう国立公園・タデ原レクチャー ＜参加費無料／要予約（団体向け）＞

学校などの団体向けプログラム。国立公園の概要やタデ原湿原についてなどのレクチャーを15分～30分程度で行います。お気軽にご相談ください。



タデ原の自然観察会 ＜参加費無料／事前申込不要（個人の場合）＞

九重の自然を守る会のボランティアガイドによる人気のイベント。毎週日曜・祝日10:00～12:00に開催しています（12～2月は隔週）。参加希望の方は10時までに、直接ビジターセンターへお越しください。団体でのお申し込みの場合は事前にご相談ください。



くじゅうだより2025夏号

発行元：くじゅうファンクラブ
（くじゅう地区管理運営協議会）

〒879-4911
大分県玖珠郡九重町大字田野255-33
長者原ビジターセンター

TEL & FAX 0973-79-2154

★活動報告やくじゅうの基本情報
などはくじゅうファンクラブ
ホームページで！
<http://kujufanclub.com/>

★くじゅう最新の
自然情報は公式
・Facebook
・Instagram
で配信中！



リレー式 職員からのひとこと

4月よりビジターセンターに勤務しています。毎朝、出勤前にタデ原湿原から自然研究路を散策することが日課になりました。タデ原を歩いていると、ヒバリやセッカがにぎやかに鳴き、自然研究路の林では、キビタキやオオルリの鳴き声を聞きながら歩くのがとても気に入っています。くじゅうの自然を感じながら歩いてみませんか？（筒井）

道迷い防止のため、道標を設置しました

くじゅうファンクラブでは道迷い防止のため、くじゅう連山地域に道標の設置・更新を行っています。今回は長者原からスガモリ越の間、坊原の道標を製作し、九重の自然を守る会により設置作業が行われました。

私たちが登山中に目にする道標は地名や矢印が表示されている上部だけですが、土の中に埋まっている基礎部分は風で倒れたりしないよう横木が設置されており、かなり大きな工作物になります。スコップやツルハシを使って穴を掘っていきませんが石や硬い岩盤などもあり、なかなか骨が折れる作業で数人で協力しないと実施できません。当日の道標設置は、大人が1人入れるくらいの穴を掘り、道標を置き、水平を保ってから穴を埋め戻すといった、重労働の作業となりました。この道標が設置されたことで、分かりづらかった分岐が明瞭になりました。作業にあられた皆様、大変お疲れ様でした。

近年は、海外からの登山者も増加しているため、道標には英語も併記しています。多くの方が安全にくじゅう登山を楽しめるよう、今後もくじゅう連山の登山道整備活動を支援していきます。



タデ原湿原でシカ柵内外の植生調査継続中です！

タデ原湿原におけるシカによる食害被害が問題になり、2024年にシカ防護柵を設置し、植生調査を行ってきました。

昨年の調査結果より、柵外でシカによる食害が希少種に及んでいることが確認されています。柵内では一時的なシカの侵入による食害もありましたが、植物種のほとんどに食痕はみられなかったことから、防護柵の効果があつたと考えられました。今後も、モニタリング調査を継続して行うことで、タデ原湿原の植生がどのように変化していくか注視していきたいと考えています。

シカの防護柵の資材は、皆様からの寄付金や会費を活用し購入しています。ご協力ありがとうございました！



賛助会費・寄付金について

くじゅうファンクラブでは、上記のような教育・普及啓発活動、自然環境保全・調査活動、登山道等整備活動を実施しています。活動に賛同してくださる賛助会員（個人1口3,000円/年・団体1口10,000円/年）や寄付を募集しています。賛助会員の方には、会員証の発行のほか、缶バッジのプレゼント、お便り送付などの特典をご用意しています。

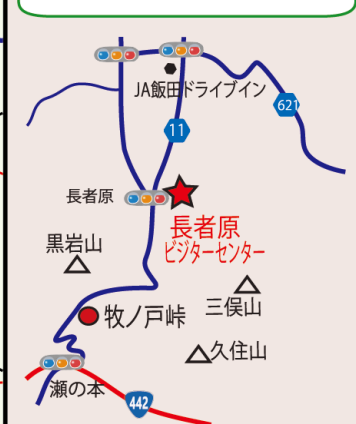
賛助会員への加入やご寄付は、クレジットカード決済に対応した congrant 株式会社のシステムのほか、郵便振替・銀行振込・窓口よりお申込みいただけます。また、くじゅうの自然情報やくじゅうファンクラブの活動報告なども congrant を用いて発信しています。詳しくはくじゅうファンクラブのホームページまたは右のQRコードからご確認ください。➡



長者原ビジターセンターへは



長者原ビジターセンターまで車で、
由布院から40分/九重ICから30分





カワガラス 森
スズメ目カワガラス科
全長22cm

チョコレート色の羽で、尾をピンと立てながら渓流を歩く姿が特徴。潜水し、水生昆虫を捕えエサとする。男池周辺の渓流で運が良ければ見かける。名前にカラスとつくが、仲間ではない。



カケス 森
スズメ目カラス科
全長33cm

頭は白色に黒のごま塩柄、翼の一部にある青の縞模様が特徴。飛ぶとその青がよく目立ち識別しやすい。男池からやまなみハイウェイに抜ける雑木林の道や、硫黄山道路などで「ジェー」という声とともによく見かける。



他にもいる！
こんな鳥



ミソサザイ 森
スズメ目ミソサザイ科
全長11cm

小さく丸っこい茶褐色のボディと、尻尾をせわしく振り、飛び回る姿が可愛い。一年を通じて日本各地に分布し、山地の渓流沿いの藪や岩のある林などに生息。かくし水ルートでよく見られる。



キビタキ 森
スズメ目ヒタキ科
全長14cm

オスの黄色と黒色で配色されたボディと凛々しいまゆげが特徴的な夏鳥の代表格。メスは地味で、オオルリのメスとよく似る。山地の森林部に生息するが、あまり目立つところでは見られないため声を頼りに探してみよう。



コマドリ 森
スズメ目ヒタキ科
全長14cm

「ヒンカララ…」と鳴き声が馬のいななきに似ていることから、馬を表す「駒」の字をあてたのが名前の由来。オスの尾羽を立て広げ求愛する姿が特徴。九州以北の高山の森林部に飛来する。



オオルリ 森
スズメ目ヒタキ科
全長16cm

山地の沢沿いの林などに生息。カップル成立までの間は朝夕問わず、雄は高い木のこずえなど目立つところでさえずるので観察しやすい。日本三鳴鳥のひとつに数えられ、「ピーリーリー、ジジッ」と美しい声が谷にこだまする。



他にもいる！
こんな鳥



他にもいる！
こんな鳥



他にもいる！
こんな鳥



他にもいる！
こんな鳥



他にもいる！
こんな鳥



他にもいる！
こんな鳥

みんなで守ろう 野鳥観察マナー

①追いかけて回さない

近づいて飛び立ったら、警戒されたサイン。それ以上はストレスを与えてしまうのでそっと距離をとろう。

②巣に近づかない

子育て中の鳥はとても神経質。危険を感じると、巣を放棄することがある。巣を見つけたらそっと離れよう。

③餌付けをしない

餌付けは野鳥の生活を変えてしまい、渡りの時期を逃す(日本の冬に耐え切れず死ぬなど)可能性があるよ。

④節度ある行動を

道を塞ぐように場所を占領すると他の人の迷惑に。道以外の場所に立ち入ると植生を荒らすことになるよ。

⑤珍しい鳥の情報を公開しない

珍しい鳥や人気の鳥の情報をSNS等で公開すると、人がたくさん集まり、地元の方の迷惑になるのでやめよう。

(参考) 日本野鳥の会BIRD FAN



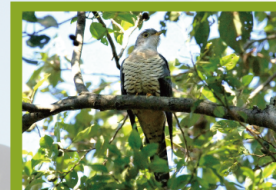
モズ 草
スズメ目モズ科
全長20cm

主食はカエルなどが多いが、メジロなどの小鳥をはじめ、稀に自分より大きなサイズの鳥を捕えることも。尻尾を回すように振る動作が特徴的。獲物を串ざしにする「モズのはやにえ」が有名。



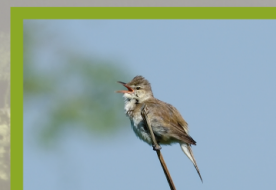
ノスリ 草
タカ目タカ科
全長57cm

トビより少し小さく、やや色が薄い。大分県では冬鳥とされているが、夏の久住高原など高地の草原などで飛翔する姿が見られる。草原や農耕地でネズミなどの小動物を捕食する。



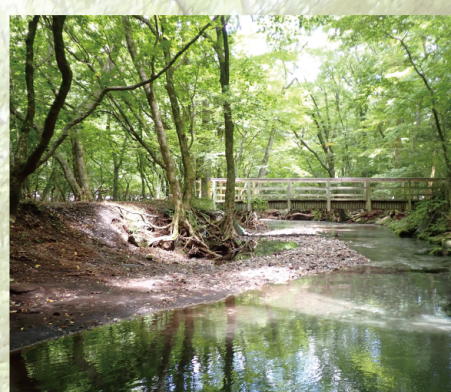
ホトトギス 草
カッコウ目カッコウ科
全長28cm

カッコウの仲間で、少しサイズは小さい。鳴き声は「特許許可局」や「テッペンカケタカ」など聞きなされ、夜に鳴くことも多い。万葉の時代からもっとも多くの歌に詠まれてきた鳥である。



オオヨシキリ 草
スズメ目ヨシキリ科
全長18cm

日本各地の平野部から山地の湖沼、河川のヨシ原やススキなどの草原に生息。鳴き声は独特で、「ギョギョン ギョギョシ」と大きなさえずりが草原から聞こえ、ススキなどにとまる姿を観察できる。



2 男池く黒岳

体力度 ★★☆☆
難易度 ☆☆☆

整備された遊歩道を起点に、男池周辺の野鳥観察を楽しむことができる。森林性の野鳥が多く生息し、県内でも貴重な観察エリアとなっている。かくし水までのルートもおすすめたが、登山道歩くための準備が必要なので少しハード。

野鳥観察だけを目的にすると出会えなかったときの落胆が大きいので、散策をセットで楽しむつもりで行くのがおすすめ。おまけのつもりで気負わず探すが良い。



＜注意事項＞
かくし水までのルートは登山道のため、登山靴などが必要。植生保護のため歩道のみ通行すること。

3 久住高原

体力度 ★★☆☆
難易度 ☆☆☆



くじゅう連山をはさんでタデ原湿原の反対側に位置し、牧野の草原が一面に広がる。草原性の野鳥が多く生息するが、出合いはタイミングがほとんど。沢水キャンプ場内では森林性の野鳥が生息し、観察しやすい。



他にもいる！
こんな鳥



ぐやみに近づくと怖がって逃げちゃうよ！
双眼鏡があると観察しやすいよ



鳥の大きさを比較する目安となる
“ものさし鳥”をたよりに探してみよう！



スズメ 14.5cm ムクドリ 24cm ヒヨドリ 27.5cm ハト 33cm カラス 56.5cm トビ 65cm

くじゅうの野鳥観察に出かけよう！

4月の終わりにさしかかり、季節が春から初夏へ移るころ、日本はたくさんの野鳥でにぎやかになってきます。1年を通じて日本でも暮らす「留鳥」、春の渡りで南の国から渡ってくる「夏鳥」たちが、活発に行動する季節です。ツバメやオオルリといった夏鳥たちの多くは、東南アジアなど遠い南方からなんと数千キロもの距離を渡ってきます。そのため、旅の途中で命を落とす鳥も少なくありません。彼らはなぜそんな危険な旅をして日本に来るのでしょうか？ 彼らの旅の目的はズバリ「エサ」にあると言われています。日本の春から夏は、毛虫やバッタなど高タンパクで栄養価の高い食べ物が豊富にあります。夏鳥はエサが豊富にある夏の日本で子育てし、親鳥はせっせと巣にエサを運びます。そして、秋になると親子で一緒に南の国へ向かうのです。春から夏、夏鳥をはじめとした野鳥たちは、縄張りや求愛行動のため、美しい声でさえずり、行動が活発になります。

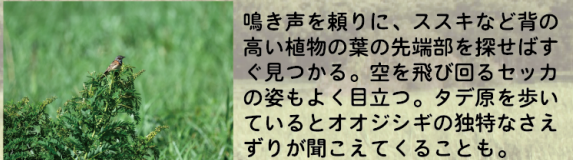
＜鳥の観察エリア＞ 森…森林エリアでよく見られる鳥 草…草原エリアでよく見られる鳥

1 タデ原湿原

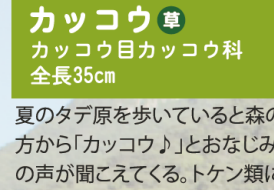
体力度 ★☆☆
難易度 ★☆☆



草原エリアはタデ原湿原で暮らす野鳥を木道から観察できる初心者向けのコース。ホオアカやセッカなどの鳥にはほぼ確実に会える。森林エリアは樹上にとまっていると観察しづらいが、ヤマガラやシジュウカラなど、カラ類の混群が近くに来ると、比較的観察しやすい。

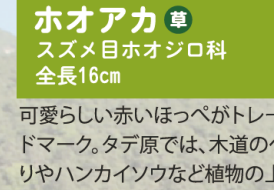


鳴き声を頼りに、ススキなど背の高い植物の葉の先端部を探せばすぐ見つかる。空を飛び回るセッカの姿もよく目立つ。タデ原を歩いているとオオジシギの独特なさえずりが聞こえてくることも。



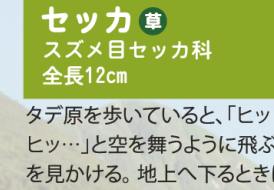
カッコウ 草
カッコウ目カッコウ科
全長35cm

夏のタデ原を歩いていると森の方から「カッコウ」とおなじみの声が聞こえてくる。トケン類に分類され、他の鳥の巣に産卵する托卵の習性や、一般的鳥は前趾3本で木にとまるが、前後2本ずつの趾でとまるのが特徴。



ホオアカ 草
スズメ目ホオジロ科
全長16cm

可愛い赤いほっぺがトレードマーク。タデ原では、木道のへりやハンカイソウなど植物の上にとまり、さえずる姿をみることができる。姿がホオジロによく似ているが、鳴き声は短く少し濁ったような声でさえずる。



セッカ 草
スズメ目セッカ科
全長12cm

タデ原を歩いていると、「ヒッヒッヒッ…」と空を舞うように飛ぶ姿を見かける。地上へ下るときは「チャッ チャッ」と、それぞれ鳴き声が異なる。オスがクモの糸を使い、ススキを縫うように壺型の巣を作り、メスを招待する。



ヤマガラ 森
スズメ目シジュウカラ科
全長14cm

森を歩いていると鼻にかかったような「ニーニーニー」という声や、「ツツピーンツツピーン」と鳴く声が聞こえてくる。腹がオレンジがかった茶色で、人懐こく距離が近いので観察しやすい。気づいたら頭の真上にいることも。



クロツグミ 森
スズメ目ヒタキ科
全長21cm

オスは黒いボディにまだら模様の胸腹が特徴的。オスのさえずりは高音から低音まで音域が広く、何種類ものレパートリーを組み合わせ、時には他の鳥のさえずりを取り入れながら、複雑かつ美しいメロディーを奏でる。



オオジシギ 草
チドリ目シギ科
全長30cm

朝や夕方にタデ原を散歩していると、「カミナリシギ」と異名を持つほどの独特な鳴き声が聞こえてくる。姿を見るのは難しいが、稀に特徴的なディスプレイ飛翔を見ることができる。タデ原は貴重な生息地のひとつ。



他にもいる！
こんな鳥